

<p><研究課題名></p>	<p>D-0907 (F-095)</p>	<p>渡り鳥による希少鳥類に対する新興感染症リスク評価に関する研究</p>	
<p><研究概要></p> <p>本研究で開発する超小型GPS位置測定システムを用いて、ウエストナイル熱ウイルス (WNV) に対する抗体を持つ当年生まれの渡り鳥が極東ロシアのどの地域を帰巢地とするかをカモ類、シギ・チドリ類他で調査することによって、極東ロシア地域の中でWNVの常在汚染地点を特定する。また、WNVを媒介する吸血昆虫の極東ロシアでの発生時期と繁殖期が一致し、日本への飛来時期が日本の吸血昆虫発生時期とが一致しているシギ・チドリ類でのWNV感染状況を調査する。加えて、我が国に侵入した際に絶滅危惧鳥類 (シマフクロウ、オジロワシ、タンチョウ、ヤンバルクイナ等の絶滅危機具鳥類種) のどの種に致命的な被害が生じるのかを細胞培養系を用いた感染実験によって明らかにする。</p> <p>(1) 渡り鳥の移動経路と感染症伝播との関連究明に関する研究 ①サブテーマ(3)との連携のもとに、我が国に極東ロシア地域から飛来する渡り鳥の移動経路を解明し、②感染症抗体 (抗WNV 抗体) 陽性個体の繁殖地探索の情報収集を行うことを目的とする。</p> <p>(2) 希少鳥類への渡り鳥による感染症リスク解析研究 ①極東ロシアと我が国を往来する渡り鳥のWNV 保有状況と抗WNV 抗体検査をサブテーマ(4)と共同で行うと共に、②我が国の絶滅危惧鳥類及び在来鳥類種の培養細胞を用いてWNV 感受性に関する情報を得る。</p> <p>(3) 超小型の野鳥位置探査システムの開発・改良研究 ①重さ25g以下で衛星への信号送信機能を備え、使い捨ての野鳥位置探査用GPS システムを開発する ((1)と共同)。また、②システム本体および周辺機器の特許化を行う。</p> <p>(4) 渡り鳥での新興感染症病原体に対する抗体反応性解析・評価に関する研究 ①サブテーマ(1)、(2)との共同研究を通じて得る野生鳥類の血清を用いて、新興感染症となるWNV に対する抗体反応性を解析することで、血清採取した鳥類個体の過去の罹患率を確定する。また、②中和抗体試験によって近似の抗体反応を呈する日本脳炎ウイルスに対する抗体との分別鑑定を行うことで追跡すべき渡り鳥個体を特定する情報を全研究班に提供する。</p>			
<p><研究代表者></p>		<p>桑名 貴 独立行政法人国立環境研究所 環境研究基盤技術ラボラトリー長 (58才)</p>	
<p>No.</p>	<p>サブテーマ名</p>	<p>氏名</p>	<p>所属機関名・部局・役職名</p>
<p>(1)</p>	<p>渡り鳥の移動経路と感染症伝播との関連究明に関する研究</p>	<p>○ 樋口 広芳 藤田 剛</p>	<p>東京大学大学院・農学生命化学研究科教授 東京大学大学院・農学生命化学研究科助教</p>
<p>(2)</p>	<p>希少鳥類への渡り鳥による感染症リスク解析研究</p>	<p>◎ 桑名 貴 大沼 学 久米 博</p>	<p>独立行政法人国立環境研究所環境研究基盤技術ラボラトリー長 独立行政法人国立環境研究所環境研究基盤技術ラボラトリー研究員 独立行政法人国立環境研究所企画部研究推進室</p>
<p>(3)</p>	<p>超小型の野鳥位置探査システムの開発・改良研究</p>	<p>○ 松浦 功哲 新井 圭 河野 昌史</p>	<p>株式会社コア関西カンパニー事業部長 株式会社コア関西カンパニー課長 株式会社コア関西カンパニー担当課長</p>
<p>(4)</p>	<p>渡り鳥での新興感染症病原体に対する抗体反応性解析・評価に関する研究</p>	<p>○ 只野 昌之 斉藤 美加</p>	<p>琉球大学医学部医学研究科准教授 琉球大学医学部医学研究科助手</p>